



内閣府（防災担当）

## 首都直下地震帰宅困難者等対策検討委員会（第6回） 議事要旨について

### 1. 検討委員会の概要

日時：令和6年6月4日（火） 15:00～17:00

場所：中央合同庁舎第8号館4階 S407-2

出席者：廣井座長、浅野（幸）委員、浅野（岳）委員、臼田委員、大木委員、大原委員、金子委員、河合委員、西尾委員、西平委員、丹羽委員（代理：山中委員）、保科委員（五十音順）

事務局：内閣府（防災担当）

### 2. 議事要旨

#### ■議題（1）「帰宅困難者等対策に関する今後の対応方針」に基づく具体施策の検討経過について

事務局から、資料1の説明。

#### ■議題（2）帰宅困難者の適切な行動判断のための情報提供のあり方について

事務局から、資料2の説明。

委員からの主な意見等は次のとおり。

○発災時には、自治体が一時滞在施設の開設要請を出せない場合を考慮し、機械的に開設要請がなされる仕組みを検討すべきではないか。自治体マンパワーの省力化にも寄与する。

○一部の自治体では、発災直後に一時滞在施設の開設要請が出せないことを想定して、強い揺れが発生した場合には、一時滞在施設の管理者等が自動的に施設を開設するような協定を結んでいるケースもある。一時滞在施設の管理者においては、発災から開設までの間に、情報収集・発信すべきことがもっとあるのではないか。

### ■議題（３）一斉帰宅抑制後の帰宅場面における再度の混乱発生の防止について

事務局から、資料３－１、３－２、３－３の説明。

委員からの主な意見等は次のとおり。

- 鉄道事業者の平時からの備えとして、運行情報に関する概念の共通化を扱うべきではないか。
- 徒歩移動の場面において、ボトルネックとなり得る橋梁部だけではなく、余震等を踏まえ、密集市街地やそもそも地域危険度が高いところを避けることも明示した方がいい。
- 帰宅経路がそもそも密集市街地ではないか、火災危険度、倒壊危険度等が高くないかなど、経路の安全性も確認しておくべき。
- 特に一時滞在施設の管理者は、施設で受け入れることとなる帰宅困難者の年齢、国籍、健康状態などが様々であることを認識しておくべきではないか。支援を考える際にも、まずは心構えが必要。
- 高い耐震性が確保されている公立の小・中学校と一般的な保育施設では状況が異なるため、打てる手が異なるのではないか。公立の小・中学校に対してはもう少し踏み込んで記述してもよいと思う。
- 介護施設や保育施設等において、保護者等のお迎えが可能となるまでの預かり対応を検討していただきたいと考えている中で、「こどものお迎え等の事情により自らの判断で移動を開始することを妨げるものではない」といった、矛盾する表現は避けるべきではないか。
- 帰宅困難者等自身の安全確保を強調した方が、抑制につながるのではないか。
- 実際は国が方針等を示し、地域レベルで指針、あるいは企業ごとにルールを決める形になると考えられるので、自治体や企業においては、このルールを住民や社員等にこのまま周知するのではなく、地域特性等に応じてアレンジし、それを周知するとの記載にすべき。
- 発災後 72 時間で生存率が極端に低下するかは根拠に乏しい。72 時間を過ぎても助けられる者はなるべく早期に助けるということで、4 日目以降も必要な場合は帰宅抑制になり得ることと整合するのではないか。
- 自動車についての内容を充実させるべきはないか。また、レンタサイクル・レンタルバイクについて扱えないか。
- 一時滞在施設の確保が難しい中で、「3日間」を強調すると、施設を提供する企業等が（3日間を長期と感じ）協力への抵抗感が増すことが懸念される。そもそも帰宅困難者等対策における「一時滞在施設」、「一斉帰宅抑制」、「帰宅支援ステーション」といったことの認知度の向上が必要。
- 「帰宅の平準化」の意味が一般の方には分かりにくいのではないか。「むやみに移動しない」は分かりやすく、よく使われたが、分かりやすく刺さるキーワードを使うことが啓発のためには重要。
- 地震時は火災リスクも高まるため、（現行ガイドラインの建物チェックリストに）防火・消火設備、避難経路等の火災に関する注意事項を追記すべきではないか。

■議題（４）その他

- ・外国人旅行者等への情報提供及びデジタル技術の活用事例（報告）
- ・今後のスケジュール

事務局から、資料４の説明。

委員からの主な意見等は次のとおり。

- 外国人の中にも、数年は国内で暮らす留学生、長期滞在者、旅行者等属性の違いがある。留学生については災害時の対応等で困ったことが生じた場合に、大学に頼る志向が圧倒的に強いため、留学生の防災教育については大学が責任をもつようにすべきであるとのコメントをさせていただく。
- 外国人への対応を検討する際に、何語を使えばいいのか、最近はアプリがあるから翻訳は不要とするのか、アプリの翻訳は確度が低いと見るのかなど、共通概念がないことについて、問題提起をさせていただく。

以上